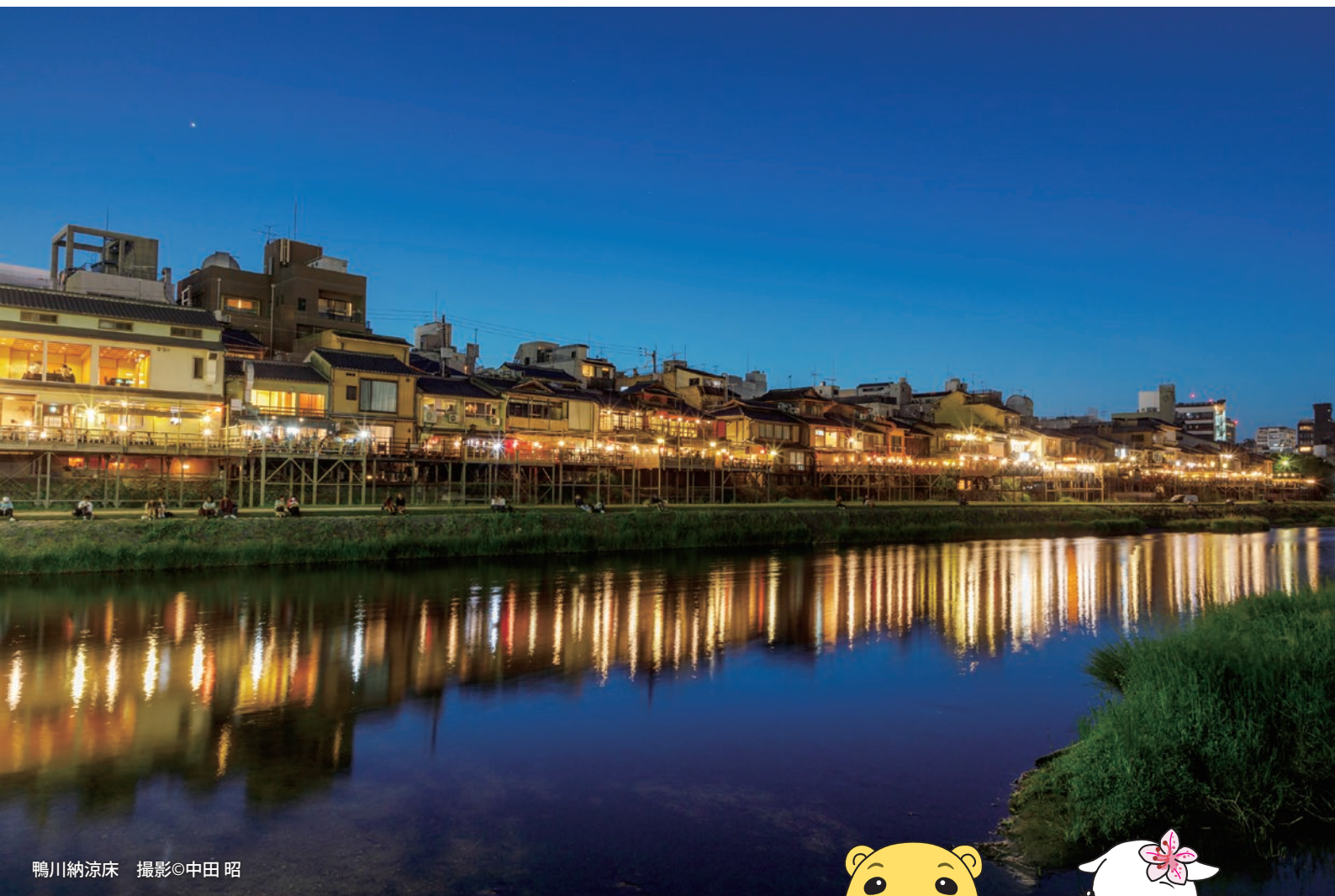


やすらぎ

京都市立病院
広報誌

2019・7

夏

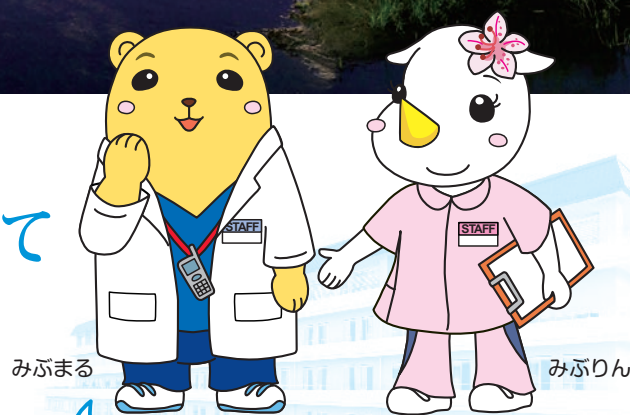


鴨川納涼床 撮影©中田 昭

—特集—

京都市立病院の救急医療について ～地域に必要な医療を提供～

- ◆ 腎臓内科の取組 —高齢者に優しい腎疾患治療—
- ◆ 栄養科の活動紹介
- ◆ がん看護専門外来について
患者さんの意思決定を、チームで支えるための倫理カンファレンス
- ◆ セカンドオピニオンについて
- ◆ 京北病院まつりを開催します



みぶまる

みぶりん

みぶまる・みぶりんのことを
知りたい方は、当院ホームページ
をご覧ください



地方独立行政法人 京都市立病院機構
京都市立病院

京都市立病院の救急医療について

～地域に必要な医療を提供～

高齢化に伴い全国的に救急車搬送件数が増加する中、当院においても病院憲章「救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。」に則り、24時間365日地域医療機関と連携を図りつつ、あらゆる救急医療に対応することを心がけ、年間約6,000件の救急車を受け入れています。



当院の救急医療について

絶え間なくあらゆる救急対応を実践するには特定の病院・人員だけでは不可能です。地域全体で提供する救急医療の役割を検討し、分担しています。

▶重症傷病者への対応:

“蘇生救命による安定化”を念頭に根本治療を支えるべく、当院では、各プロトコル(診療手順)を共通目標として、救急室と集中治療室で診療します。

▶社会的課題を抱えた傷病者への対応:

地域医療連携室・外部機関と相談しながら、患者さんの意向を踏まえて対応しています。

▶医療機能分担について:

直接自宅退院が困難な場合、入院と同時に多職種で連携して退院先を検討しています。

▶ともに学び教える

院内外から実習・研修を受け入れ、ともに学び教えることで、未来の急性期医療を担う人材育成を心がけています。



救急科 部長
國嶋 憲



救急外来へ来たらまずはトリアージ

当院の救急外来へ来られる患者さんは、重症度が高い方やそこまで重症でない方等様々です。

患者さんを重症度に応じて判別するトリアージを行います。看護師(トリアージナース)が問診や身体所見から緊急性を判断、優先順位を決めることで、重篤な患者さんを拾い上げるよう目配りをします。

トリアージ → 初期診療 (→ 専門診療)

「腹痛で^{だいたいみやくりゆうはれつ}大動脈瘤破裂だった」「頭痛でくも膜下出血だった」など、救急現場での病状は多岐にわたります。



トリアージの様子



集中治療室との連携

高度な医療を提供するためには、各診療科のみならず、様々な職種と連携しています（薬剤科・放射線技術科・臨床工学科・臨床検査科など）。

集中治療室、病棟等と協同で初期診療を開始し、プロトコル（診療手順）を基に事例検討を定期的の実施しています。

令和元年7月に入職しました。

救急科と密に連携し、救急医療に貢献してまいります。



集中治療科 部長
小尾口 邦彦

夏場に多い救急疾患

▶夏頃に救急で運ばれる疾患

熱中症

まずは水を多めに



食中毒（食あたり）

食べ物だけではなく、体調管理や感染予防を徹底する事も重要です



高齢者の方へ ～こんな時には救急車を！～

顔

- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える



高齢者



頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立ってられない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

<参考>総務省消防庁救急マニュアル

▶その他には…

脳梗塞：

脳の血管が詰まり、脳の機能が障害された状態。手足のしびれ等の症状が表れる。

心筋梗塞（急性冠症候群）：

冠動脈が突然ふさがり、心筋の一部への血液供給が大きく減少または遮断されることで起こる。

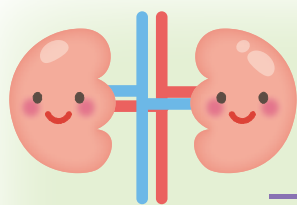
深部静脈血栓症：

静脈に血栓ができる症状。エコノミークラス症候群として肺塞栓症を引き起こすこともある病気。症状は、腫れや同時に痛みや熱感、発赤などを伴うこともある。

敗血症（特に尿路感染症）：

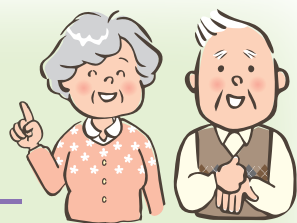
体内に病原菌が侵入し、体全体に炎症反応が起きているような状態の病気。

…等の症状が夏場に多い疾患です。



腎臓内科の取組

—高齢者に優しい腎疾患治療—



高齢者に多い腎疾患

少子高齢化という言葉を目にするようになって久しいですが、当科に新規で来られる腎臓病の紹介患者さんの多くは65歳以上の高齢の患者さんです。高齢者に特徴的な腎疾患のうち、急いで対処しなければならないものとして、血管炎と多発性骨髄腫（血液がんの一種）が挙げられ、それらを血液検査で除外診断すると同時に、尿の状態と病歴から腎臓病の種類を推定します。確定診断が必要な場合、入院していただき、腎臓の組織検査を行います。組織検査によって診断が確定すれば、これまで蓄積された医学データから最適な治療法が決まりますし、腎臓の今後の状態も推しはかることができます。



腎臓内科 部長
家原 典之

eGFRについて

ところで、腎臓が老いていく臓器であることをご存知でしょうか。最近よく使われる腎臓の働きを示す「eGFR（正常100）」で言うと、病気がなくても、病気が落ち着いていても、10年間で3～7程度は低下します。高齢の方の腎臓はそれなりに働きが低下しています。人生100年で考えると、若い頃は100点満点ですが、疾患及び加齢とともに低下して100歳の時点で5点以上確保できていれば腎臓の代わりの治療（透析）は必要ありません。病気による低下スピードや組織診断の時点での障害の具合によって、逃げ切れるかどうかを判断します。

腎臓病の治療について

腎臓病の治療は3種類に大きく分けることができます。1つ目は腎疾患そのものの治療ですが、これはいくつかの腎炎でのみ可能です。2つ目は腎疾患の進行スピードを左右するタンパク尿を降圧剤を用いて抑制する治療法です。3つ目としては腎臓機能の低下を補填する薬物療法です。腎疾患そのものを治療できる場合は一部ですので、食事療法と腎臓への悪化因子を見つけてその治療をすることが重要となります。

腎臓病教室について

残念ながら腎臓機能がかなり低下した場合には腎臓の代わりの治療（腎代替療法）が必要となります。具体的には血液透析・腹膜透析・腎移植ですが、これらの治療法の利点欠点を踏まえた上で選択することが必要です。腎代替療法があれば寿命は伸びます。eGFRの値が30程度の時までに、患者さん自身がどういう人生を送りたいかを念頭に置きながら療法を選択します。あくまで患者さんが中心で、そのための情報提供・運動療法・食事療法の集団指導として腎臓病教室を奇数月の第2～第4木曜午後1時30分から行っています。是非かかりつけ医の先生とご相談の上、参加してください。（参加費無料）



腎臓病教室の様子

管理栄養士の病棟担当制を実施しています

食事はすべての患者さんにとって治療の根本であり、生きる基本になるものです。

病棟を担当する管理栄養士が、入院された患者さんの栄養管理を行い、病気の改善や予防につなげるための在宅食事療法の支援を行っています。



病棟での業務

高い専門性を持った管理栄養士は、入院患者さんの栄養アセスメント（栄養評価）を実施して、早期に栄養障害を発見し栄養管理を開始し、必要に応じて主治医に提言します。

食欲不振がある場合、食欲不振食で対応します。量を抑え、主食を食べやすい麺類やお寿司、サンドイッチ等に変更し、果物やゼリーなど口当たりの良い食品をプラスするなどの工夫をします。低栄養や褥瘡^{じよくそう}予防のために濃厚流動食や栄養補助食品の利用も検討します。

口内炎の場合は、刺激物や酸味の強いものを避け、口腔内の刺激を和らげるために軟らかい料理を用います。

また、咀嚼^{そしゃく}困難の場合は、軟菜食やミキサー食、嚥下障害の場合は嚥下調整食で対応します。食物アレルギーや嗜好で禁止食のある場合は、代替料理を提供するなどのきめ細かい食事対応を実践しています。

栄養障害の原因を探り、円滑に栄養管理を実施するためには、多職種との関わりが重要です。栄養サポートチームをはじめとして、褥瘡チーム、緩和ケア、糖尿病対策、認知症ケア等の医療チームとも連携を行って、患者さんの情報共有に努めています。

また、患者さんが生活の場に帰るための栄養食事指導も行っています。退院前カンファレンスに参加して、地域との後方支援を視野に入れた情報共有を、医師や看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等と共に行い、患者さんのQOL（生活の質）の向上に努めています。



食欲不振食

「がん患者さんとお家族のための食事のヒント」を発行

がん治療が進歩し、がんの治療をしながらも普段通りの生活が続けることができる一方で、「食事が食べられない」「おいしく感じない」という症状は多くの患者さんが経験されます。

食欲が落ちること、食べる楽しみがなくなることは、患者さんにとっても、そばにおられるご家族にとっても辛く、こうした症状が治療への前向きな気持ちをそいでしまうこともあります。

本パンフレットでは、食欲不振や味覚の変化があるときに食べやすい食事の工夫・レシピをご紹介します。患者さんとお家族の方に少しでもお役に立てれば幸いです。

当院北館2階の情報コーナーや地域医療連携室等で配布を行っている他、ホームページからもご覧いただけます。ご活用ください。



がん看護専門外来について ～がんと診断されたとき～ 患者さんの意思決定を、チームで支えるための倫理カンファレンス

がん看護外来でどのような支援をしているの？

当院では、がんと告知された患者さんが、自分の病気のことや、これから受ける医療を正しく理解するためのサポートとして、「がん看護外来」を開設しています。患者さんが、自分が受ける医療を正しく理解できなければ、自分で決めることはできません。ですから、がん看護外来では、患者さんが「分かること」「分からないこと」を可能な範囲で区別して、その上で「どうしようもない」「これしかない」といった患者さんの気持ちを共に共有しながら、患者さんの意思決定を支援しています。



～がん看護専門外来受診方法～
ご希望の方は、地域医療連携室
にお問い合わせください。

患者さんの意思決定を、チームで支えるための倫理カンファレンス

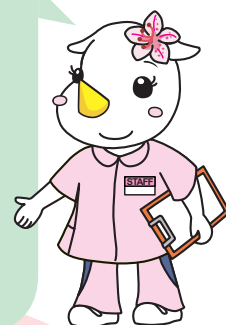
医療者は、「患者さんにとって最善の治療」を第一に考えるあまり、患者さんの「こうなったらいいなあ」という希望を優先して考えられないことがあります。また、医療者として、「こうすべき」という気持ちが強いほど、立ち止まれないために、患者さんの気持ちが置き去りになることも少なくありません。そこで、当院では「倫理カンファレンス」として、医療者だけで考えることが難しいケースは外部の倫理専門家にも加わっていただき、「みんなで立ち止まって考える」取組を継続して行っています。そのためにも患者さんの言葉を拾い、「患者さんは何を一番大事にしたいと思っているのか」と考えるプロセスを、病院の中で、地域で、作っていきたいと考えます。



倫理カンファレンスの様子

「健康教室 かがやき」を
8月16日（金）14時30分～
京都市立病院北館ホール2
で開催します！

ぜひお越しください！
講師は、がん看護専門看護師
の松村師長です♪



セカンドオピニオンについて



セカンドオピニオンとは、治療方針等について、現在診療を受けている担当医とは別の医療機関の医師に「第2の意見」を求めることです。

他の病院や診療所に通院されている方のために当院ではセカンドオピニオン外来を設けています。

詳細はこちら→



<https://www.kch-org.jp/patient/06-2/02-2>

また、当院に受診の方も、他院でセカンドオピニオンを希望することが可能です。お気軽に総合相談窓口までおいでください。

セカンドオピニオンを受けることで、病気に対する理解が深まる、治療の選択の幅が広がる等、より納得して治療に臨むことができます。

(参考) セカンドオピニオンの手順

目的を明確にし、
セカンドオピニオン
先を決める

今の治療方針で
本当によいのか
など…

今の主治医に紹介
状・診療情報(検査
結果等)をもらう

主治医にセカンド
オピニオンを受け
たいことを伝える

予約の上、
セカンドオピニオン
受診(自費診療)

自分が聴きたい
ことを事前に
まとめておく

今の主治医と治療
方針を再検討する

治療する病院を変える、
さらに別の医師の意見を聴くなど、主治医と相談しながら治療方針を決定する

京北病院まつりを開催します

京北病院では、毎年、“地域の皆さまに親しんでいただける開かれた病院”をテーマに「京北病院まつり」を開催しています。

例年、人気落語家による即席寄席や京北にゆかりのある方々による演奏会などを企画し、200名近くの皆さまにご来院いただき、京北病院の夏の恒例行事として親しんでいただいています。

9回目の開催となる今夏も、人気落語家による即席寄席と人気バンドによる沖縄三線の演奏等を予定。

笑って唄っての楽しいひとときに皆さまのご参加をお待ちしています。

日時 令和元年8月24日(土)
13時～15時30分

●申込み：不要

●料 金：無料

場所 京北病院玄関ホール

お問い合わせ ▶ 075-854-0221



昨年の様子

健康教室「かがやき」

「健康はつくるもの」です。一人ひとりが健康づくりに取り組み健康に過ごしていただけるように、健康づくりを応援する当院各科講師による健康教室を開催します。

- 日 時 毎月第3金曜日 午後2時30分～午後3時30分
- 場 所 北館7階ホール2
- 定 員 先着順50名(予約不要)

8月16日(金)

『自分や家族、大切な人ががんと診断されたとき』

9月20日(金)

『遺伝子?ゲノム?ここまで来た出生前診断』

禁煙教室 ～吸う人も吸わない人も知って得するタバコの不思議～

タバコ煙の成分やニコチン依存症のしくみ、タバコによる健康被害、禁煙のコツなど、様々な視点から話をします。

禁煙希望者には医師などが具体的なアドバイスを行うほか、その場で当院の禁煙外来を予約することができます。

- 日 時 毎月第2金曜日 午後2時～午後3時
- 場 所 北館7階ホール2
- 対 象 京都市立病院に入院や通院している方に限らず、禁煙に興味のある方ならどなたでも

糖尿病教室

糖尿病は、療養を怠ると数多くの恐ろしい合併症が現れる反面、適切な治療を続けていれば、健康な人と変わることなく生活することができます。糖尿病についての正しい知識を持って、糖尿病と向き合っていきましょう。

- 日 時 毎月第3木曜日 午後3時～午後4時
- 場 所 北館7階ホール1

8月15日(木)

『食事療法のコツ ～外食・間食～』

『糖尿病の病態生理と身体活動の深い関係』

9月19日(木)

『治療を支えるお薬の話 ～注射薬編～』

『糖尿病とフットケア
～今日から始めよう 足のお手入れ～』

がん患者・家族のサロン「みづなの会」

がんで療養中の患者さんとそのご家族の集まりです。患者さん同士で、色々な悩みをお話したり、情報交換ができます。人と話をしたり、話を聞くだけでも、気持ちが軽くなるものです。気軽な気持ちでご参加ください。

- 日 時 毎月第3水曜日 午後1時～午後3時30分
毎月第4水曜日 午後1時～午後3時30分
- 場 所 北館7階サロン
- 対 象 がん患者さん及びそのご家族

敷地内全面禁煙



路上喫煙はやめましょう!

喫煙はマナーを守って決められた場所で。



送迎バス時刻表(無料・予約不要) ※平日のみ(土日祝・年末年始は運休)

時間	京都市立病院 ～出発～	阪急西院駅 (TSUTAYA前)	JR丹波口駅 (ユニクロ前)	京都市立病院 ～到着～
8時	30	35	45	50
9時	00 30	05 35	15 45	20 50
10時	00 30	05 35	15 45	20 50
11時	00 30	05 35	15 45	20 50
12時	00 30	05 35	15 45	20 50
13時	00 30	05 35	15 45	20 50
14時	00 30	05 35	15 45	20 50
15時	00 30	05 35	15 45	20 50
16時	00 30	05 35	15 45	20 50

当院のことをもっと知りたい方は、詳しくは、京都市立病院のホームページをご覧ください。



やすらぎ 2019・夏号 2019年7月19日発行

発行：京都市立病院機構 京都市立病院

〒604-8845

京都市中京区壬生東高田町1番地の2

TEL 075-311-5311

FAX 075-321-6025



京都市立病院

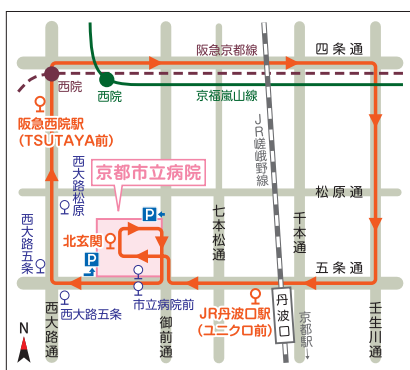
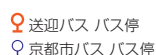
〒604-8845

京都市中京区壬生東高田町1番地の2

TEL 075-311-5311(代)

FAX 075-321-6025(代)

<https://www.kch-org.jp/>



京都市立京北病院

〒601-0533

京都市右京区京北下中町鳥谷3番地

TEL 075-854-0221(代)

FAX 075-854-0825(代)

<https://www.kch-org.jp/keihoku/>

